

富士市立東小学校における学校教育の未来を考える会（会議要旨）

- 1 開催日時 令和4年7月15日（金）午後6時30分～午後8時00分
- 2 開催場所 富士市立東小学校体育館
- 5 発言要旨 ※参加者の発言は、1回のやりとりにつき1段落で、要旨としてまとめています。
【凡例】「・」…参加者の発言 「⇒」…事務局の回答や発言

開会

＜事務局より＞

- ⇒平成元年度から令和9年度までの東小学校の全校児童数推移の説明
- ⇒東小校区と須津小校区の0歳から中3までの学年ごとの児童生徒数の説明

＜質疑応答＞

- ・複式学級の規定について、確認したい。
⇒1年生を含む2個学年で8人以下の場合、1年生を含めない2個学年で14人以下の場合、複式学級となる。
- ・前回、複式の基準は16人以下と聞いた記憶がある。東小学校は教務主任を担任が担っているが、配置されている教員が少ないのか。
⇒16人以下で複式学級というのは国の基準だが、現在のように2学年で児童数が15人の場合、県から加配教員が配置されるので、複式学級が解消されている。県の措置による加配教員も含めて、東小学校の現在の教員数が、正規の配置人数より不足していることはない。
- ・確かにこの学校は小規模であるが、保護者としてはなくなってほしくない。しかしながら、学校に通うのは子どもであるので、「子どもにとって」を考える必要がある。友だちが多ければ楽しいだろうし、人間関係などいろいろな経験ができるだろう。
- ・全国的には学校同士の統合や、富士川第二小中のように、小中の施設共用の方向で動いている。課題はあるが、その方向に進んでいくのかなと思う。
- ・プールは維持費がかかるので、県立プールを使ったり、小中でプールを共用したりしている学校があると聞く。これでは、泳力がつかない。全国では、民間の水泳クラブに指導を委託する

自治体もある。泳げるようになるという点では、良い取組だ。できないよりできるほうがよい。
⇒今回配付した資料をもとに、子どもたちにとってのよりよい教育環境について考えてほしい。
今年や来年すぐという状況ではないからこそ、地域の皆さんや保護者など、様々な方と話し合っていくことが必要だと思う。

- ・市街化調整区域となっているこの地区は、「地区計画」を進めていると聞いた。この話が進むと、子どもの数が各学年14、15、16人と増加する可能性もあるのではないかと。
- ・複式学級が発生し、「早急に適正化の対象」となるまで、資料では4年ぐらいある。家は一年あれば建つものだから、適正化の話と地区計画の話がリンクした情報などはあるのか。
⇒地区計画を進める予定があることは伺っているが、担当課からは、地区計画はあくまで「地区住民が主体となって進めるものである」と聞いている。浮島地区の今後について関わることであるから、地区住民の方々が「自分事」としてとらえ、積極的に説明会などに参加してほしいとのことであった。
- ・地区計画はあまり進んでいない。話があったとおり、地区計画は「地域住民が進めるもの」であるのだが、地区住民への認知度も残念ながら低い。仮に地区計画が進んでも、成果は10年から20年ぐらいかかるような制度である。
- ・地区の人口を増やすということであれば、「空き家バンク制度」を活用した方が現実的である。
- ・地区として、別のアクションを起こしていかなければならない。
- ・少子化が進んでいると聞くと、富士市内どこの地域もこのような状態なのか。
⇒地区、地域によって程度は異なるが、全体的に少子化であることは変わらない。富士南小学区、丘小学区は少子化が若干緩やかではあるが、他の地区は少子化の影響が大きい。
- ・今後、少子化が進んでいった場合、どの地区の学校も、適正化を進めていくのか。
⇒小学校の複式学級や、中学校の単学級が出るのが予見されれば、同じように適正化を進めていくことになる。
- ・小学校がなくなってしまうと、地域のコミュニティがなくなってしまう。全国には子どもが少なくても複式だったり、子どもが1人、2人であったりしても、活気があるような学校はたくさんある。地区から浮島地区の良さをPRしていかないと、本当にダメになってしまう。
⇒先ほど「富士川第二小中一貫校 松野学園」について話があったので、補足しておく。学校施設の耐震性を調査したところ、富士川第二小学校の校舎の耐久性に限界が来ていると

分かった。もともと、小学校と中学校が隣接しているという立地条件もあったので、「小中の施設を一体化し、小中一貫教育の推進を施設面からも補完できるかどうか」と地域の方に伝えたところ、賛同が得られたので、このような形となった。

⇒校舎は65年～80年使うことを基準としている。校舎の建て替えには非常に大きな金額がかかるうえ、一度建てたら長く使わないといけない。市内には建築年度が古い校舎が多いので、校舎の築年数に応じて、順々に対応していきたいと考えている。

- ・大淵第二小学校の今年度の入学生は、0人であると聞いた。現在の大淵第二小学校は何人か。
⇒新1年生は確かに0人である。2年生は2人、最も多い学年は6年生の8人。全校で23人である。
- ・大淵第二小学校は、30年以上前から市内で最も小規模な学校と聞いていた。それでも、ここまで続いていた。そう考えると、東小学校もこのまま続いていくということも考えられる。
- ・もし、東小学校が編入統合するとすると、須津小まで徒歩での登下校はあまりにも距離が長い。安全な登下校案を市から提案しないと、保護者の理解は進まない。
- ・一旦、この地区を出たとしても、「浮島地区で子どもを育てたい」「東小学校の環境がいい」と思って戻ってくる人もいると思う。学校がなくなったら、そういう人もいなくなり、地域が衰退してってしまう。
- ・子どもの人数が少ないとできないことはあるが、子どもたち同士でどうやったらできるかと考えることもまた大事である。先生方の努力や工夫もあり、大変ありがたい。子どもたちの人数が少なくても、スポーツの基本的なルールなどは習得できるのではないか。

⇒大淵第二小学校には、岩倉学園という児童福祉施設が学区にあり、その施設からも子どもたちが大淵第二小学校に通っている。「児童数が少ないながらも、大淵第二小学校のように継続して児童が入学してくるのではないか」という見込みは、東小学校においては当てはまらない。

東小学校区の最も東側から須津小学校までは4.5km近くあり、編入統合となった場合には、何らかの登校支援が必要であるが、今の時点で具体的な登校支援の内容等を提示することは、「教育委員会は統合ありきで考えている。」と誤解されてしまう恐れがあり、それは本意ではない。

人数が少なければ、少ないなりに子どもたちも学校も工夫と知恵で対応していくが、工夫できることにも限界があると思う。

- ・ 地区から小学校がなくなり、子どもが集まる場所がなくなれば、ほぼ間違いなく地区は衰退していきだろう。子どもがいなくなってから、盛り返していくことは考えにくい。
- ・ 教育委員会として現時点でどうしていきたいと考えているのか。すでに何か案があるのか。
 - ⇒現時点で案があるわけではない。小規模ならではの良さがあることは事実であるが、小規模校ならではの課題があるのも事実である。子どもたちに少人数の影響が出てしまう前に道筋をつけたい。
 - 校舎がもたなくなってからどうする、子どもに影響が出てからどうする、と慌てるのは避けたい。課題を次の世代に先送りするのではなく、このタイミングで何らかの方向性を見出したいと考えている。
- ・ 今こうして、教育委員会がきているのは、子どもたちの教育についての話題だからというのはわかる。しかし、まちづくりや地区計画など、他課が所管することにもつながっている。教育委員会だけでなく、関係課にも参加していただいて、意見を聞くことはできるか。
 - ⇒今回は、東小学校の学校教育を今後どうしていくかについてご意見を伺うため、皆さんにお集まりいただいた。
 - 将来的な浮島地区のまちづくりに関する不安の声があったこと、地区計画に関する声があったことについては、それぞれ所管するまちづくり課や都市計画課に必ずお伝えする。
 - 教育委員会は、子どもの教育に関することを最優先に考えている。全て子どもファーストであり、子どもの学びを充実させることからぶれてはいけないと思っている。
- ・ 学校の編入統合は大きなことなので、賛否両論あると思う。多くの方と、じっくり話し合うことが必要だと思う。
 - ⇒今日の資料を持ち帰って、ぜひ多くの方と話し合ってもらいたい。そして、まちづくりのこと、地区計画のこと、東小学校のことを自分事としてとらえていただきたい。
- ・ 他県に行ったとき、「子どもが減ってきているが、PTAと地区が離れてしまっていて話合いができない。どうしたらいいか。」という相談を受けたことがある。浮島地区も地域ぐるみで話し合わないとダメなところまできているのではないかと。自分たちでまちをつくるという意識を持ち、危機感をもってもらわないとまずい。
- ・ 子どもたちのよさや浮島地区のよさを、地域に発信していきたい。もっとPRして、地区を盛り上げていきたい閉鎖的な雰囲気を変えていく、今がそのタイミングだと思う。

⇒今後就学する子どもたちの学びを考え、ここで対応をしていきたい。児童数がある一定数まで減っていくと、「少人数だからよい」という人よりも「この人数では子どもに影響が大きい」と考える方が多くなり、児童数が加速度的に減少していく恐れがある。だからこそ、複式学級が存在しないこの段階で、方向性を見出しておきたい。

- ・就学予定の保護者は、この会のことを気にしているので、集めて話をしてほしい。噂に尾ひれ背びれがついて、「あと3年だな」「いつ統合するんだ」という声もある。

⇒この会で話した内容については、WEBで公開するだけでなく、広報紙を作成し地区回覧する。また、説明を望む声が多く挙がるようであれば、説明会の開催も検討していく。

- ・関係する方々と情報共有することは大切だ。自分たちの子どもがどうなるのかというのは非常に関心が高いことなので、現在在籍している保護者だけでなく、就学前の保護者の意見も聞いてほしい。

⇒検討する。

- ・回覧板が回ってきても、見ない人の方が多いのではないかと。集まってもらった方がよい。

⇒多くの人が集まることで、率直な意見が言いにくくなることも考えられる。情報共有のために、広報紙を発行していくことを優先したい。現在子どもが在籍している保護者には、学校側をお願いして配付する。未就学の保護者に対して、行政からの周知方法は回覧板しかない。

<事務局より>

- ①今回のここでの発言要旨をWEBに公開していくこと。
- ②議論を深めていく必要があるので、継続して開催していくこと。
- ③次年度以降の参加者の選任については、各諸団体に改めて依頼していくこと。

以上①～③を確認して閉会。